

平成21年度 科学研究費補助金（学術創成研究費）
事後評価結果

研究課題名	細胞の極性形成と遊走を制御する分子機構の解明	研究代表者名 (所属・職)	貝淵 弘三(名古屋大学・大学院医学系研究科・教授)
-------	------------------------	------------------	---------------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄		評価基準
	A+	期待以上の研究の進展があった
○	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

評価意見

本研究課題は、細胞の極性形成と遊走制御という細胞生物学や神経生物学の重要な課題に卓越した研究手法で挑み、新規分子や新たな細胞間相互作用を明らかにするなど期待どおりの成果をあげた。

低分子量 G 蛋白質 Rho ファミリーと細胞骨格系に焦点を当てた研究成果は国際的に高く評価される。

今後、培養細胞を主な対象として得られた知見をもとに、個体レベルで生理学的意義を問う研究を推進する必要がある。

また学術創成研究費の「意外性のある研究」を期待するという趣旨に照らすと、本研究の成果は、従来からの知見の延長上にあるとも言え、新たなコンセプトを生み出すという点では物足りなさが残るものの、全体としては期待どおり研究が進展したと判断される。